

## 「教科と関連付けた活動プログラム」について

～IKR調査の分析結果を活用した事業の工夫・改善～

県立青少年研修センター

### 教科と関連付けた活動プログラムの概要

自然体験活動を中心とした活動プログラムは、青少年社会教育施設等で行われ学校や家庭では得ることのできない体験活動を通して、社会的背景からの課題克服や、子どもたちの学び合い、相互理解に大きな効果があると期待されています。

そこで、より学校と連携・協働した体験活動を提供できるように「野外活動及び自然観察」、「文化創作活動」、「レクリエーション」の3つの分野の活動プログラムと教科等を関連付けた単元指導案を各分野4本ずつ、計12本作成しました。令和5年度は、作成した単元指導案を検証し、工夫・改善するため、集団宿泊学習の中で、希望の活動プログラムと単元指導案の一致した学校に協力を依頼し、プログラムの展開を検証しました。

#### 作成した単元指導案

〔野外活動及び自然観察〕

- (1) 小学5年 家庭科：野外炊事  
家族の生活再発見，食べて元気に，できるよ家庭の仕事
- (2) 小学5年 特別の教科道徳：野外協力ゲーム  
相互理解，寛容（協力することの大切さ）
- (3) 小学5年 社会科：白銀坂遠行  
私たちの生活と森林
- (4) 小学5年 国語科：かごしまの教えFA  
方言と共通語

〔文化創作活動〕

- (1) 小学1年 生活科：森のクラフト  
あきとあそぼう
- (2) 小学3年 理科：昆虫クラフト  
昆虫を調べよう
- (3) 小学5年 図画工作科：ベニヤパズル  
糸のこの寄り道散歩
- (4) 中学1年 美術科：陶芸A  
暮らしに息づく土の造形

〔レクリエーション〕

- (1) 小学1年生以上 学級活動：レクリエーション1  
よりよい人間関係の育成
- (2) 小学5年 体育科：室内運動会  
体づくり運動（体ほぐしの運動）
- (3) 中学1年 学級活動：レクリエーション2  
よりよい人間関係の形成
- (4) 中学1年 特別の教科道徳：グループワーク  
トレーニング（GWT）  
よりよい学校生活，集団生活の充実（協力）

### 単元指導案の検証

#### (1) 指導の実際

事前に、単元指導案をもとに、活動プログラム展開の流れや役割分担，安全面への注意点・配慮事項等の打合せを行い，本センター職員2人が主になり，引率教諭は，支援・指導をしながら，期待する具体的な学習状況をもとに，子どもたちの活動の様子を観察する流れで展開しました。

〔活動プログラム名〕 野外協力ゲーム

〔校種・学年〕 小学校・5年生（148人）

〔教材名〕 「古いバケツ」

（指導内容 B：相互理解，寛容）

〔授業時数〕 特別の教科 道徳／4時間

（学校2時間，本センター2時間）

〔ねらい〕

- ・友だちを正しく理解し，ともに活動することの喜びに気付き，進んで協力し，助け合おうとする態度を養う。
- ・友だち同士で互いに協力して学び合う活動を通して，お互いのよさを認め，支え合おうとする態度を養う。

〔評価の観点〕

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

課題を自分のこととして捉え，他人の意見を尊重しながら，自分の【協力している様子】意見を客観的に吟味し，主体的に課題を解決する姿勢で発言している。（活動観察）

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

課題解決のため様々な意見を尊重し，考えたりを思いを伝えたりしながら，積極的に合意形成を図ろうとしている。（活動観察，感想記述）

#### (2) 成果と課題

- センター職員が活動のねらいをわかりやすく説明したことで，積極的な話し合いと課題解決に向けて取り組む姿勢が見られた。
- IKR調査において，「生きる力」の数値の向上がみられた。
- 活動プログラムの内容については，引率する職員で事前にしっかり共通理解を図っておくよう周知する必要があった。

